

学校だより



# 平沼

横浜市立平沼小学校

平成30年 2月28日

URL ; <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hiranuma/>

## 平昌冬季オリンピックで感動したこと

校長 小西俊光

校舎裏の紅梅の花が満開になり、春の訪れを感じる頃になりました。時間が過ぎるのは早いもので、今年度もあと1カ月となりました。3月2日(金)より卒業証書授与式に向けた練習が始まります。6年生がこれまで学んだこと、身に付けたことすべてを發揮して、練習に臨み、自らの成長した姿を卒業証書授与式で見せてくれることを期待しています。6年生の担任を中心に全職員で6年生の子どもたちを支援していきたいと思っています。

さて、2月は平昌冬季オリンピックのライブ放送に一喜一憂した1カ月だったことと思います。2月26日(月)、平昌冬季オリンピックで大活躍だった日本選手団が韓国から帰国したニュースが報じられました。その中で日本選手団の主将を務めるスピードスケート女子500メートルで金メダリストの小平奈緒選手が「今回目標として百花繚乱をあげたが、たくさんの競技で皆さんがきれいな花を咲かせてくれた」と選手の活躍を力強く伝えてくれました。金メダル4個、銀メダル5個、銅メダル4個の計13個のメダルを獲得した日本選手たちに多くの人々が感動し、魅せられたことと思います。

そんな中、私が魅せられたのは、ノルディックスキー・ジャンプ女子ノーマルヒルで高梨沙羅選手の銅メダルが決まった瞬間、駆け寄って高梨選手を抱きしめた伊藤有希選手です。伊藤選手はメダルを期待されながら風に恵まれず9位に終わり、悔しい気持ちでいっぱいだったことと思います。そんな中、伊藤選手は、ソチオリンピックの悔しさをバネに金メダルを目指して頑張ってきた高梨選手の複雑な気持ちを察し、しっかり受け止めたのだと思います。高梨選手をしっかり抱きしめる伊藤選手の姿、抱きしめられた高梨選手の涙、そして響きわたった「おめでとう！」という伊藤選手の励ましの言葉が忘れられません。

もう一つ魅せられたのが、女子カーリングの試合が終了し、選手が宿舎に戻った後の深夜、黙々とストーンを投げ続ける本橋麻里選手です。本橋選手がストーンを投げている理由は、自らの練習のためではなく、ストーンの滑り具合を確認し、どのストーンがどの日本選手に合うかを調べるためだったそうです。また、通称「もぐもぐタイム」で選手たちが食べていたリンゴの皮をむいて用意したのも本橋選手だったそうです。女子カーリングチームの主将でありながら、リザーブ(控え選手)としてチームのメンバーが力を発揮できるよう陰で選手を支えた本橋選手にも感動しました。一度も試合には出場しなかった本橋選手ですが、実は私たちの見えないところでチームのメンバーの一人として仲間と共に戦っていたのだなと思いました。

平沼小学校111年目を穏やかに終え、112年目を迎えることができるのも、伊藤選手や本橋選手のように平沼小学校を支え、応援してくださる地域の皆様、保護者の方々がいるお陰であると改めて感謝しております。ありがとうございました。